

コミュニケーション進化論 ～本当の大変化が始まるのか？～

山田正雄ゼミナール
コミュニケーション班

大作	元宏
埴	智史
保坂	優介
脇坂	紗衣

研究の視点

近年、SNSや動画共有サイトなどを利用してコミュニケーションを行う人が増えているが、何故だろう。

おそらくWebインフラや、Webアプリケーションなどの技術的な発展とそれによる利用者の幅の増大によるものだと考えられる。

では、ここでいう技術の発展とはどのような発展なのか。

また、それにより人々は今どのようなコミュニケーションをしているのかを研究したい。

そして、今後コミュニケーションはどのように発展していくのかを考察したい。

はじめに

インターネットとコミュニケーションの関係

インターネット人口の増加

+

インターネットの技術の進歩



コミュニケーションの拡大・多様化

目次

はじめに

1章 インターネットとコミュニケーション

1.1 インターネット上のコミュニケーションとは

1.2 インターネットの発展の歴史

1.3 What is Web2.0

2章 Web2.0とコミュニケーション

2.1 SNSの利用目的

2.2 mixi

2.3 ニコニコ動画

2.4 Twitter

2.5 まとめ

3章 Web2.0を超えて

3.1 Tim's prediction about "post Web2.0"

3.2 インターネットコンテンツ量の推移

3.3 Lifelog

3.4 Lifelogとコミュニケーション

3.5 コミュニケーションの大変化？

参考文献

1章 インターネットとコミュニケーション

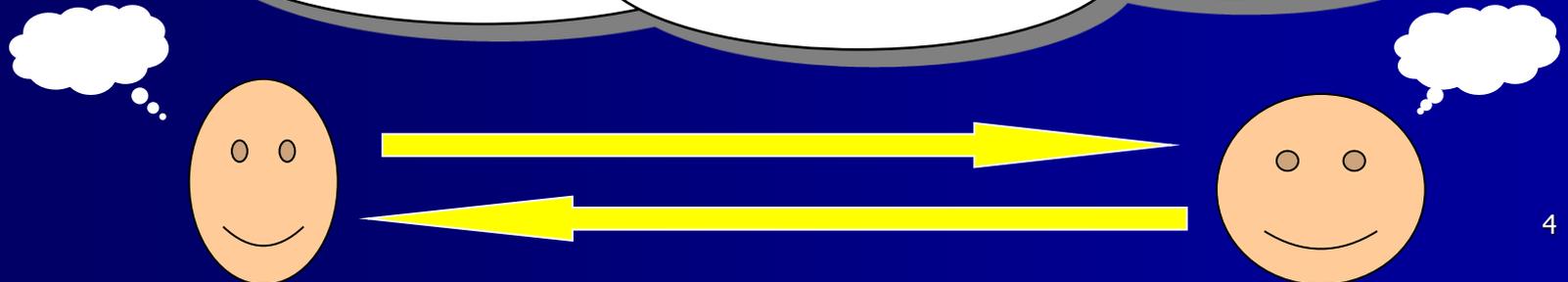
1.1 インターネット上のコミュニケーション

(1/3)

そもそも

コミュニケーションとは・・・

人と人が五感を通じて
意思疎通をはかろうとすること

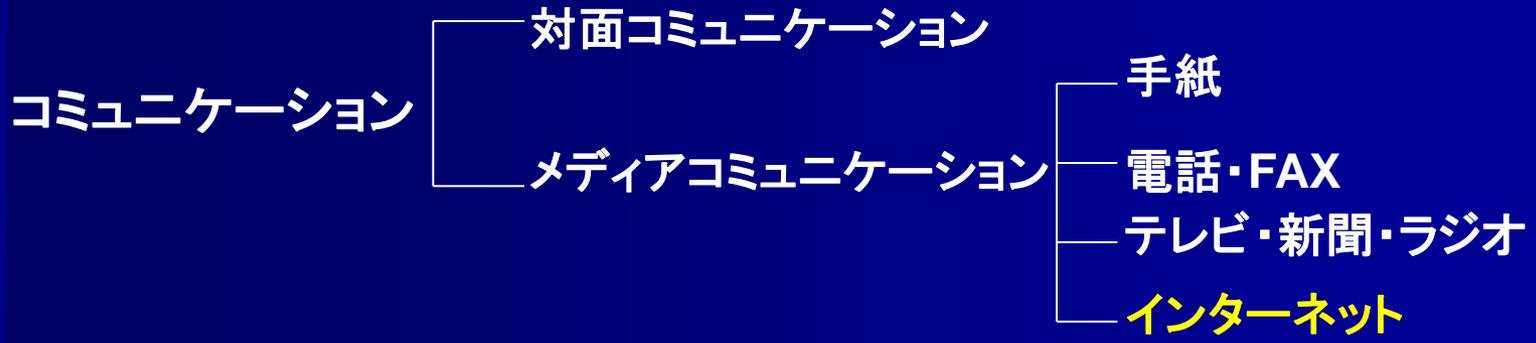


1章 インターネットとコミュニケーション

1.1 インターネット上のコミュニケーション

(2/3)

コミュニケーションの限定



私たちは、インターネットを介したコミュニケーションに焦点をあてる。



1章 インターネットとコミュニケーション

1.1 インターネット上のコミュニケーション

(3/3)

インターネットで行うコミュニケーションの特徴

- ・時間的、空間的制約が少ない
- ・使えるのは視覚と聴覚のみ



限られた情報でいかに効率的に
コミュニケーションを行えるかが重要！

1章 インターネットとコミュニケーション

1.2 インターネットの発展の歴史 (1/4)

ウェブブラウザの進化

1990年初頭

WEBブラウザで表示できるのはテキストのみでした

1993年 「Mosaic」の登場

テキストの表示とともに、画像の表示が可能になりました



タブブラウザ

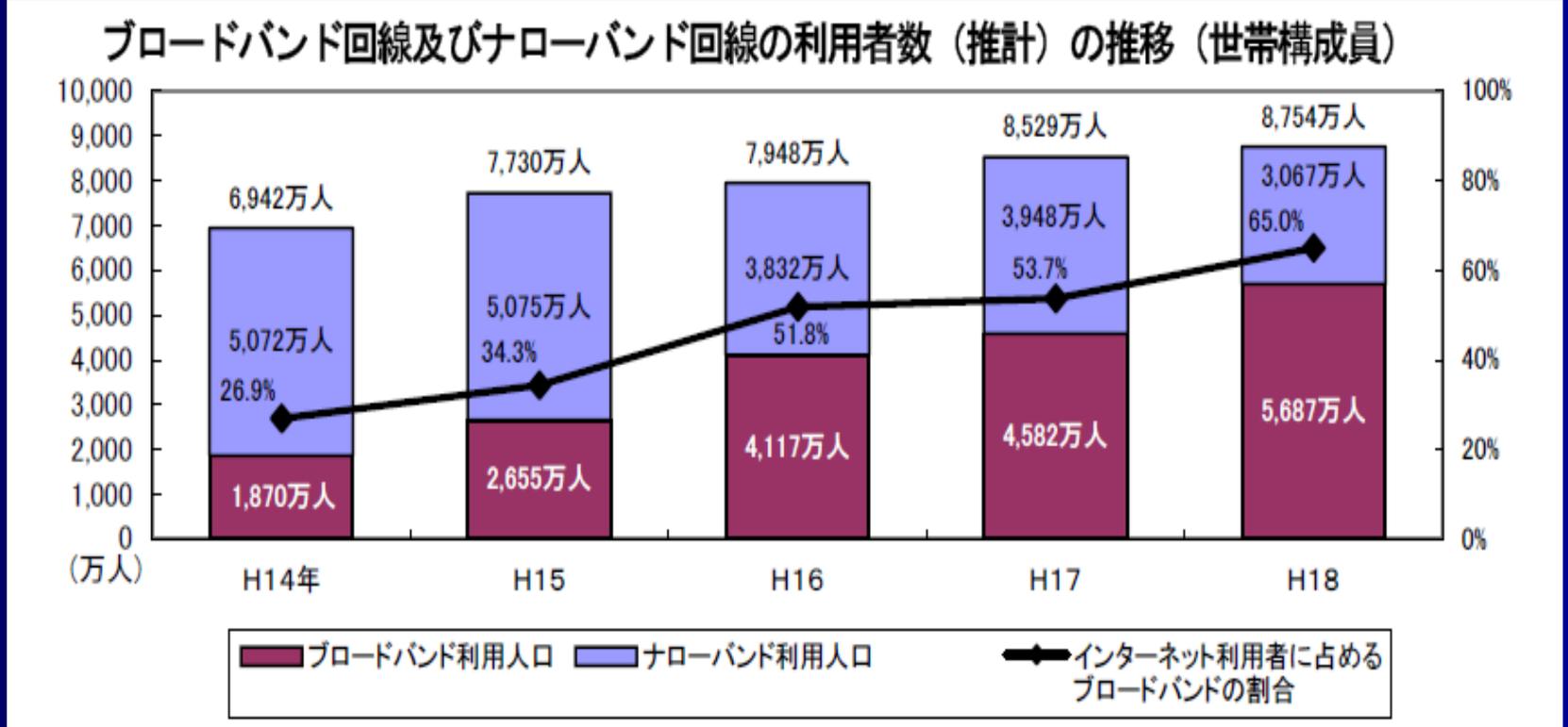
- 1つのウィンドウで複数のウェブページの閲覧が可能になりました。
- 効率よくウェブページの閲覧ができるようになりました。



1章 インターネットとコミュニケーション

1.2 インターネットの発展の歴史 (2/4)

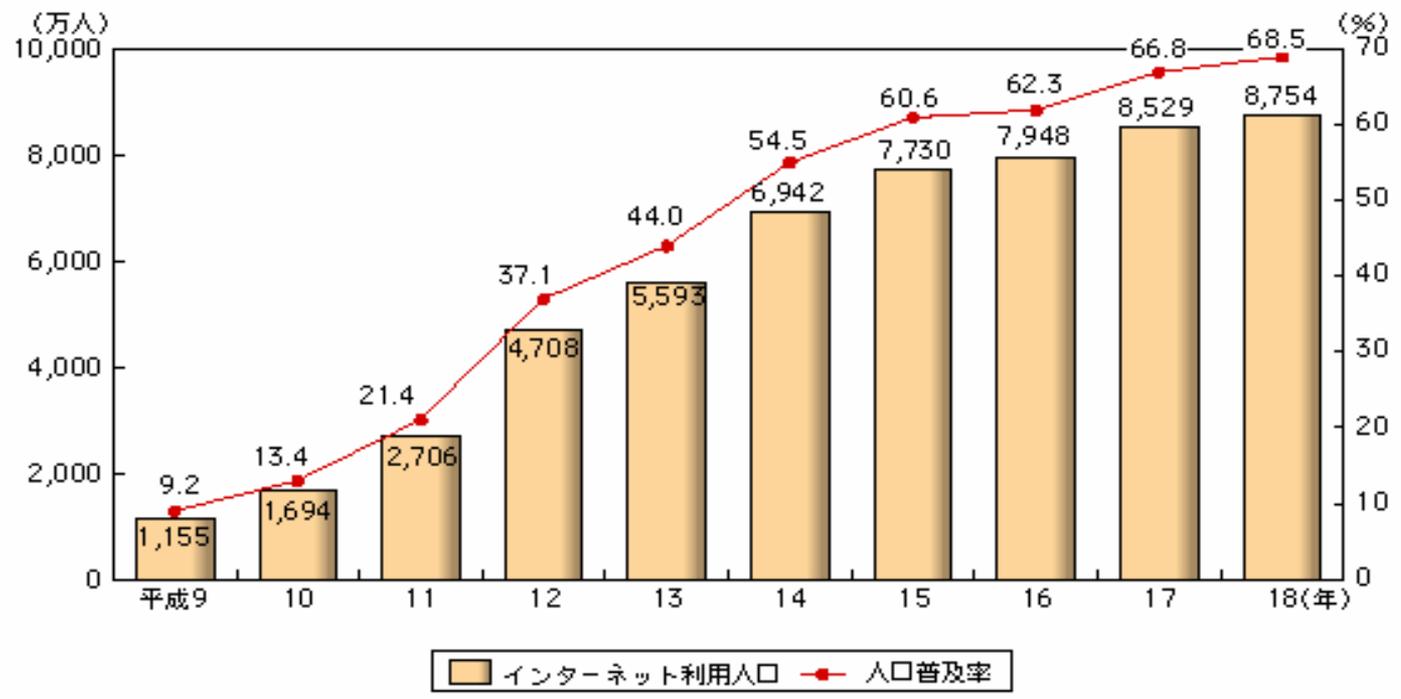
通信技術の進化



1章 インターネットとコミュニケーション

1.2 インターネットの発展の歴史 (3/4)

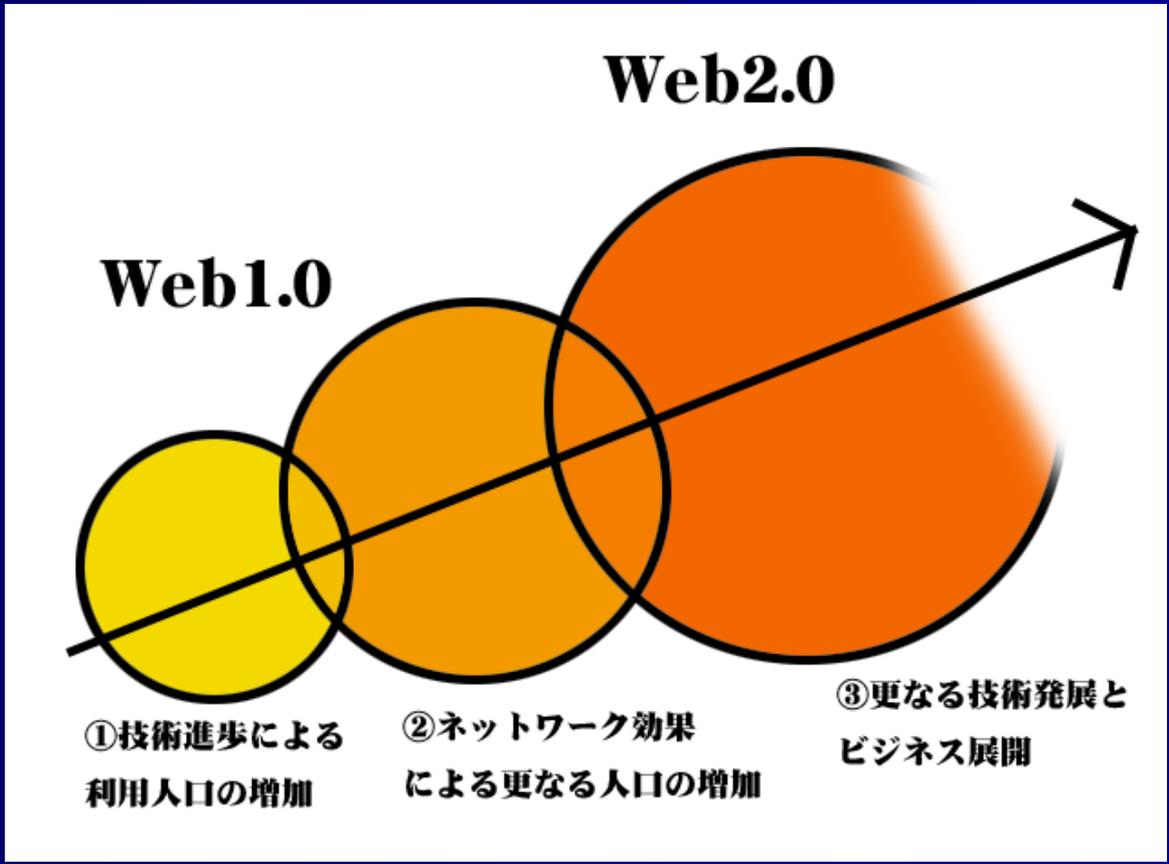
インターネット利用人口の増加



(出典)総務省「通信利用動向調査(世帯編)」

1章 インターネットとコミュニケーション

1.2 インターネットの発展の歴史 (4/4)



1章 インターネットとコミュニケーション

1.3 What is Web2.0 (1/2)

提唱者 ティム・オライリー

論文：“What is Web2.0”



Web2.0 7つの構成要素

- ① *Folksonomy*(ユーザの手による情報の自由な整理)
- ② *Rich User Experiences*(リッチなユーザ体験)
- ③ *User as contributor*(貢献者としてのユーザ)
- ④ *Long tail*(ロングテール)
- ⑤ *Participation*(ユーザ参加)
- ⑥ *Radical Trust*(根本的な信頼)
- ⑦ *Radical Decentralization*(分散性)

1章 インターネットとコミュニケーション

1.3 What is Web2.0 (2/2)

Web2.0

7つの構成要素 主なコンテンツ

- ① ユーザの手による情報の自由な整理 ⇒ **Flickr**
- ② リッチなユーザ体験 ⇒ **Google Maps**
- ③ 貢献者としてのユーザ ⇒ **Amazon** カスタマーレビュー
- ④ ロングテール ⇒ **Google AdSense, Google AdWords**
- ⑤ ユーザ参加 ⇒ **Blog**
- ⑥ 根本的な信頼 ⇒ **Wikipedia**
- ⑦ 分散性 ⇒ **BitTorrent**

2章 Web2.0とコミュニケーション

2.2 mixi (1/2)



日本最大のSNS
(2007年9月における累計登録者数1400万人)

- ・日記機能—自分の状況や、思ったことを自由に書く
- ・友達機能—自分とのつながりを持ったユーザーを見る
- ・コミュニティ機能—自分と趣味嗜好があうミニコミュニティに参加する
- ・メッセージ機能—会員間だけで行えるメールの送受信を行う
- ・足あと機能—自分に興味を持ってくれた人を知る
- ・ミュージック—自分の聞いている音楽を紹介

etc...

2章 Web2.0とコミュニケーション

2.2 mixi (2/2)

特徴

- ・完全紹介制による信頼の高さ
- ・本名で登録している人が多い
- ・入会している者はみな誰かの知り合いという安心感
- ・mixi疲れ
- ・mixi八分
- ・商業利用者の増加

2章 Web2.0とコミュニケーション

2.3 ニコニコ動画 (1/2)



2ちゃんねるの管理人ひろゆき氏が監修を務める会員制動画共有サイト

- 動画の画面上に、人々が加えたコメントを時系列的に表示

2章 Web2.0とコミュニケーション

2.3 ニコニコ動画 (2/2)

特徴

- ・匿名性
- ・非同期的だが、同期的＝「非同期ライブ」
- ・コミュニケーションに対する圧力が低い
- ・コミュニケーションが発展する可能性が低い

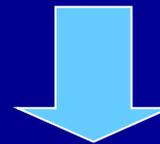
2章 Web2.0とコミュニケーション

2.4 Twitter (1/2)



「つながり」に純化したコミュニケーション

- ・アメリカ発の新しいサービス
- ・脈絡のない独り言を自由に発信し、自分自身をゆるやかに実況中継するようなサービス



今までに無い
コミュニケーションの登場か??

2章 Web2.0とコミュニケーション

2.4 Twitter (2/2)

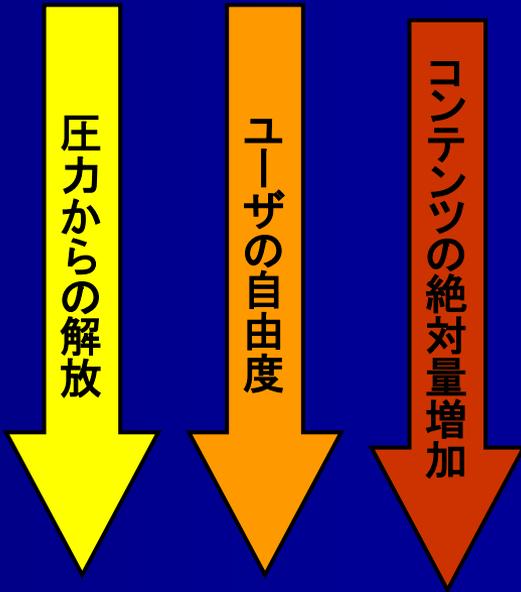
特徴

- ・同期的に見えて同期である必然性はない
- ・リアルに近い感覚
- ・コミュニケーションに対する圧力が低い

2章 Web2.0とコミュニケーション

2.5 まとめ

- メール
- BBS
- ブログ
- mixi
- ニコニコ動画
- PLAYLOG
- Twitter
- ⋮



積極性の低いコミュニケーション
“つながり”だけに純化したコミュニケーション

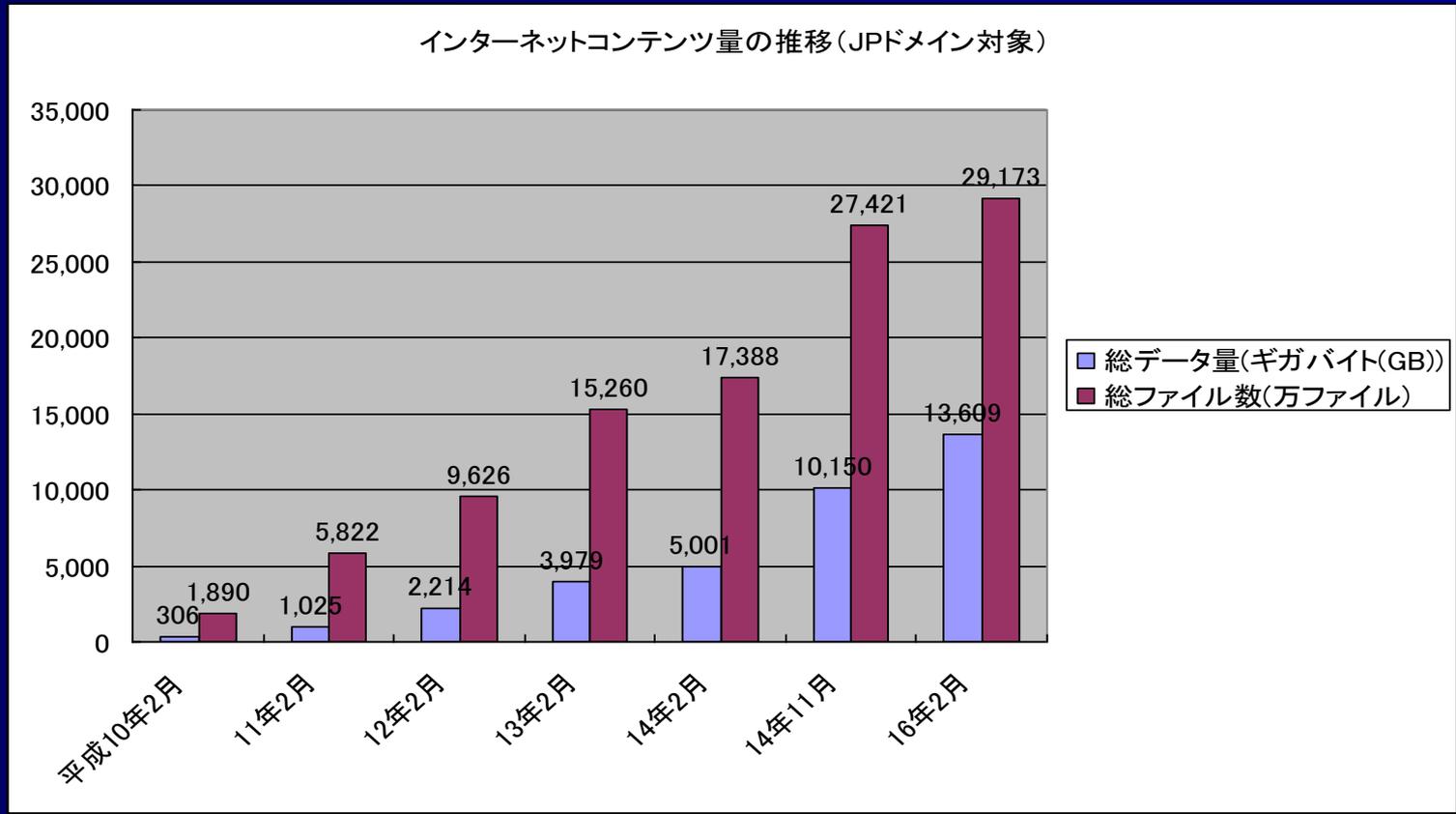
3章 Web2.0を超えて

3.1 Tim's prediction about "postWeb2.0"

- ・様々な端末やセンサーから収集されるデータの連携活用
- ・今後4、5年間は、Web2.0は個人利用から、より多くのビジネス領域に拡大する

3章 Web2.0を超えて

3.2 インターネットコンテンツ量の推移



(出典)総務省情報通信政策研究所「WWWコンテンツ統計調査

3章 Web2.0を超えて

3.2 インターネットコンテンツ量の推移

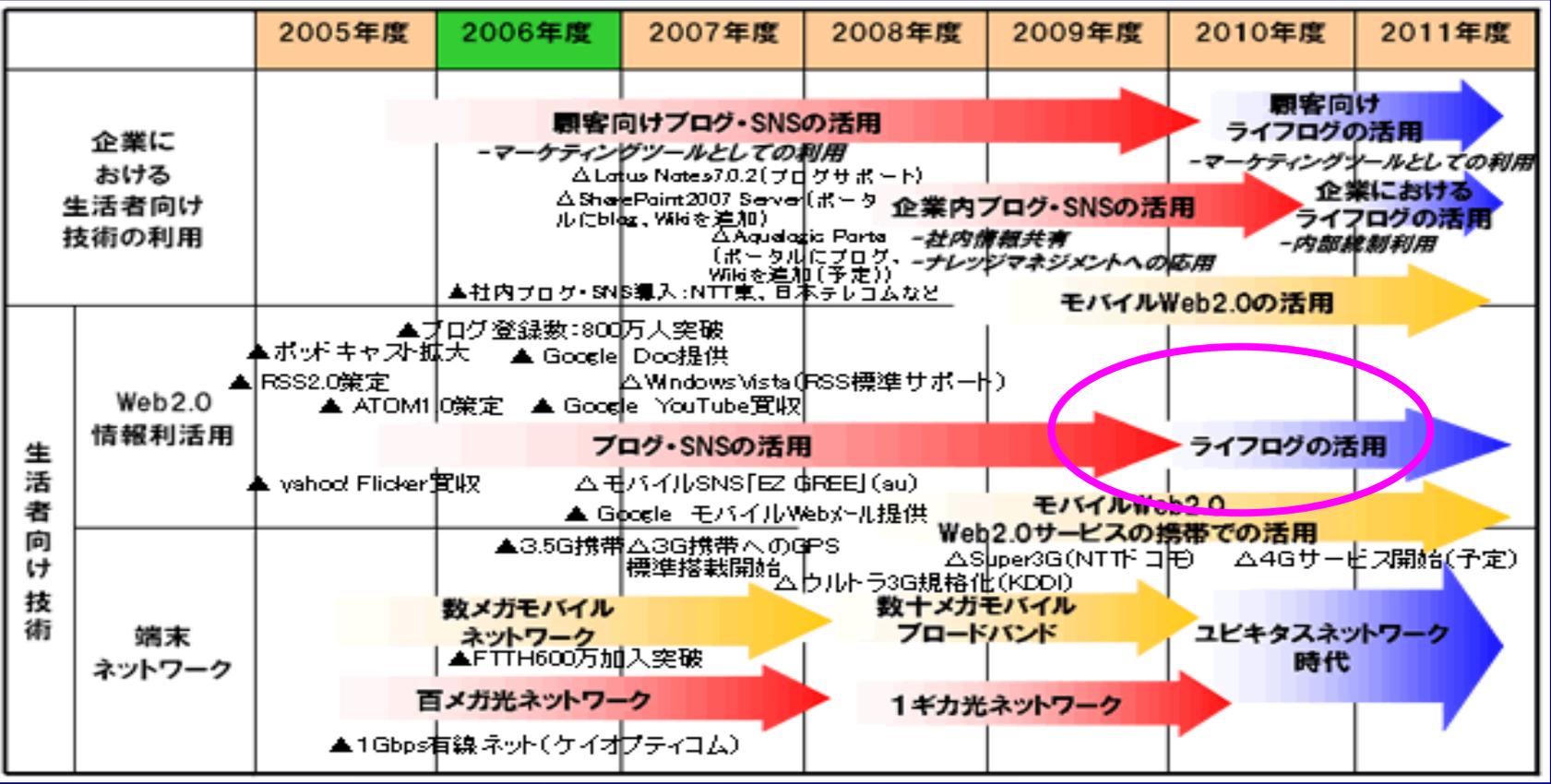
インターネット上のコンテンツ量の増大



データの有効利用に向けた
新たな取り組みの登場

3章 Web2.0を超えて

3.3 Lifelog (1/2)

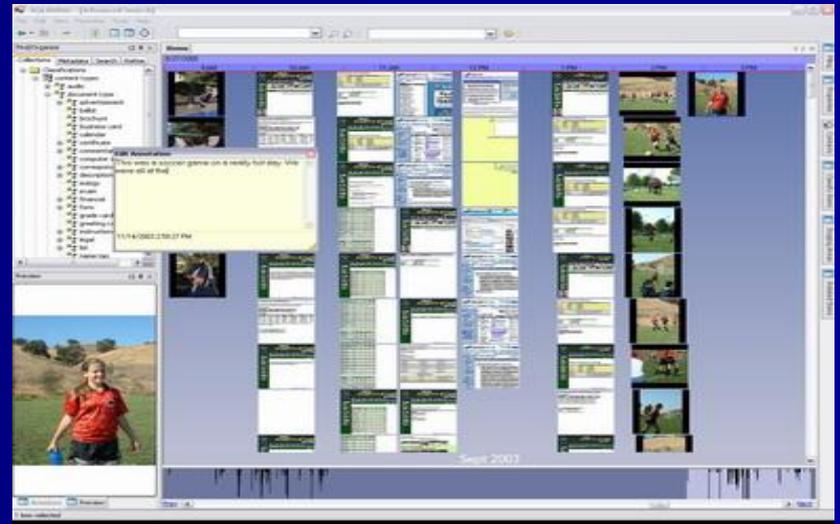


(出展)野村総合研究所HP 2011年度までのWeb2.0関連技術の進展を予測した「ITロードマップ」

3章 Web2.0を超えて

3.3 Lifelog (2/2)

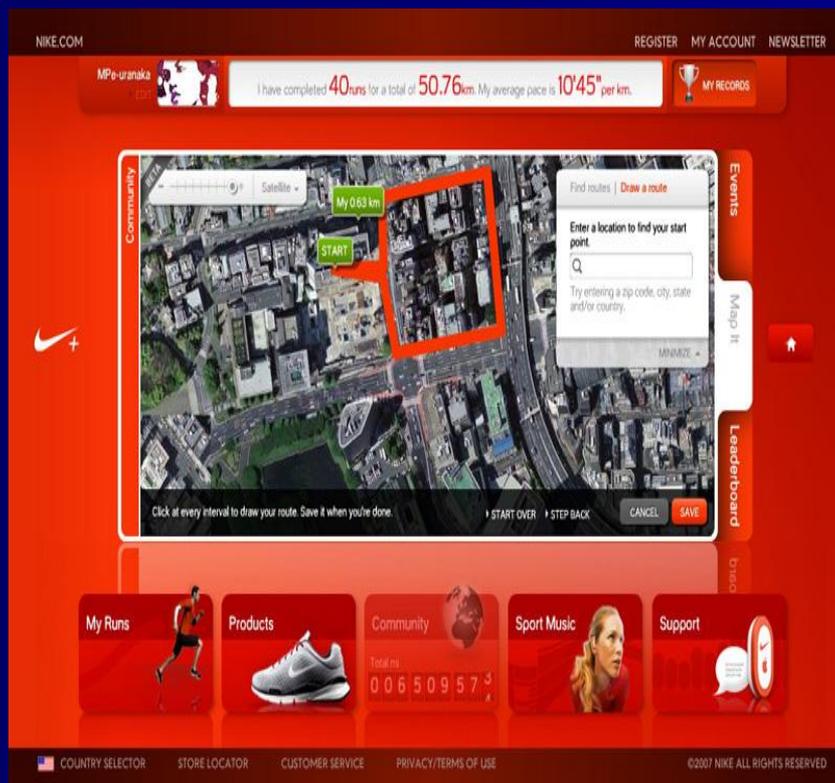
- ・人間の行い(life)をデジタルデータとして記録(log)に残すこと
- ・2004年よりDARPAが研究を開始



3章 Web2.0を超えて

3.3 Lifelogとコミュニケーション (1/2)

Nike + iPod Sport Kit

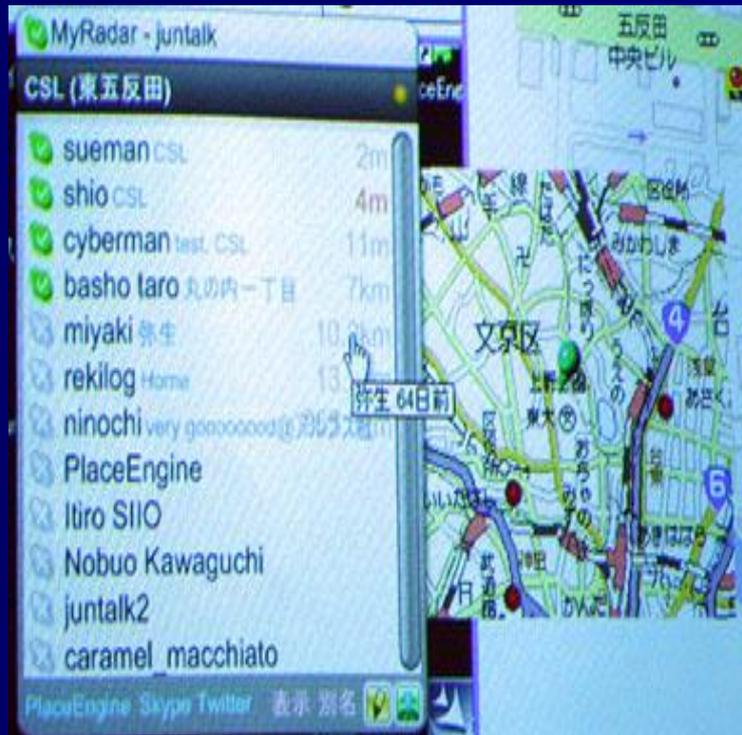


- iPodとGooglemapとが連携し、走行ルートを地図上に記録
- iPodに走行距離、時間、速度、消費カロリーなどの情報を記録
- 記録情報を元にレースなども可能

3章 Web2.0を超えて

3.3 Lifelogとコミュニケーション (2/2)

MyRadar



- PlaceEngine、Skypeとの連携。Skypeにログオンしたメンバーの場所を地図上に表示
- メンバーに自分の現在位置を教えることが可能
- 現在はiTunes、Twitterとも連携している

3章 Web2.0を超えて

3.4 コミュニケーションの大変化？

- ・情報機器の発達による人々の生活状況の細かな記録の収集
- ・それらの効率的利用のためのLifelogの発展



現実のコミュニケーションとのギャップを埋め、
インターネット上のコミュニケーションを豊かにしていく

参考文献

【書籍】

橋本良明 『コミュニケーション学への招待』 大修館書店 2004年9月1日(第8刷)

加藤智明、永島穂波 『超図解 日本版Web2.0最前線』 エクスメディア 2006年8月25日

佐藤尚規 『最新 Web2.0の基本と仕組みがよ〜くわかる本』

秀和システム 2006年10月5日(初版)

Team Webbook 『そろそろWeb3.0』 クロスメディア・パブリッシング

2007年6月30日(初版)

梅田望夫 『ウェブ進化論—本当の大変化はこれから始まる』

筑摩書房 2006年3月20日(第6刷)

ひろゆき 『2ちゃんねるはなぜ潰れないのか?』 扶桑社 2007年7月1日(初版)

佐々木俊尚 『ネット未来地図～ポスト・グーグル時代20の論点～』

文藝春秋 2007年10月20日(初版)

【雑誌】

アスキー 「Web2.0を支える技術を知る」 『月刊ネットワークマガジン』

第12巻 第11号 2007年11月1日発行

【その他】

ミクシマニア <http://www.mixi-mania.com/>

[独占単独インタビュー]ティム・オライリーが語る「Web3.0」とは？

<http://web-tan.forum.impressrd.jp/e/2006/12/19/594>

野村総合研究所HP <http://www.nri.co.jp/>